


中津干潟プチポスター・写真・映像展

取組開始時期	2021.6.12-7.7	取組の カテゴリー	環境対策	応募部門 (○を付ける)		PF会員間連携部門	○	一般部門
1. 団体名	特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会		2. 連携先の 団体	◎中津市環境政策課 イオンモール三光 地球環境基金				
3. 取組 目的	中津干潟を中心とした地域の自然環境やゴミ問題についての広報活動				4. 関連する ゴール	 		

5. 取組経緯

当初中津市環境政策課が、地域のごみ問題や環境などに関わる展示を行うので、当会にも協力してもらえないかと打診がありました。当初ポスター一枚の予定だったところ、当会からポスターや写真、映像などの展示をお願いしたところ快諾をえました。期間中これまで、当会と関係の薄かった多くの市民の皆様は地域の自然環境について知っていただける場となりました。

6. 取組概要（100字以内） ※1次選考にて、投票ページに掲載します

大分県中津市環境政策課と大規模小売店イオン三光モールなどの協力を得て中津干潟に代表される地域の自然環境について広く市民に知っていただく機会を創出した。

画像（会員投票の際のサムネイル）



取組のポイント（3つの視点）

地方創生SDGsの視点

地方自治体とNPOが協働して人々が集うモールを会場に、ゴミの減量やリサイクル、地域の自然環境について広く知ってもらい場を創出した。NPOだけでも、地方自治体単独でも難しい取り組みであったが、協働により高い相乗効果を得た。

ステークホルダーとの連携

はじめに中津市環境政策課の企画があり、当会は他の環境関係団体と同様にポスター一枚のみの参加の予定であった。良い機会と考えた当会から中津市にさらに内容を広げてみてはどうかと提案、快諾を得たことで互いの目的を保管できる結果となり、より多くの人々に関心を持ってもらい、知っていただくことができた。

モデル性・波及性

環境NPOは慢性的な予算不足であり、大きな会場での広報は難しい。地方自治体は予算措置はできても地域の自然環境について必ずしも把握できていない。互いに不足する部分を補いあうことができた今回の試みは、実力はあるものの予算の少ない環境系NPOにとっても、市民に周知を図りたい自治体にとっても良い結果となると思われる。

7.取組詳細（取組内容の詳細及び取組によって得られた成果、今後の方向性等）



ただ、物品を展示しているだけでは、人はなかなか来てくれないが、NPOのスタッフを複数配置して、通りがかりの市民に語りかけを行った。アンケートなども同時に行い、どの程度地域の自然環境などについて知っているかを調査した。

今後、周知活動を一定程度重ねていく中で、市民の意識がどのように変わっていくかを追跡したいと考えている。

これまでと異なり、自然保護区についての考え方が変わりつつある。今までは、とにかく希少な自然には一切触れることをさげようとする考えが主流であったが、目の前の自然は、ヒトとの関係性の中で創出されたものであるという方向に舵が切られている。よって、私たちが暮らす、いわゆる二次的自然をどのように保全していくかというのが当面の課題となっている。里山や里海などと呼ばれる環境にとどまらず、私たちは自然の中で互に関係性をもって暮らしているという視点がどうしても必要になる。しかし、残念なことに今のところ市民と暮らしている自然の間には大きな溝ができてしまっている。その溝を少しでも埋める仕事を誰かが行っていかなければ、ヒトと自然の関係はどんどん失われていきます。気づけば地域アイデンティティなどと呼ばれる、自己を確立するために重要と考えられる事柄からかもどんどん離れていくことが予想される。古里の街古里の自然、知ることが無ければ、利用の方法も、なぜ、どのように大切なのかも知らぬまま人々は社会の中で暮らすことになる。私たちは、この状況を少しでも緩和し、環境の問題点を理解してもらい、地域の環境に親しんでもらう活動を展開して行きたいと考える。地域環境の保全は開発行為と必ずしも対立するものではない。どちらにしても、ヒトや生命がよりよくあるために必要なものであろう。私たちはどちらか一つを選ぶのでは無く、その間にあるものに目を向けるための手伝いを続けようと考えている。

2030年までには、なんらかの公的な保全の枠組みに中津干潟を入れていく努力を続けたい。